

令和 2 年 5 月 18 日現在

機関番号：13701

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K15741

研究課題名（和文）超高齢社会における医科歯科連携体制の構築プロセスの検証と教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Exploring the processes of building a medical-dental collaborative system in a super-aged society and development of interprofessional education

研究代表者

今福 輪太郎（Imafuku, Rintaro）

岐阜大学・医学部・助教

研究者番号：40649802

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、医科歯科連携の実態を調査し、その連携の促進及び阻害要因を明らかにすることで、医療実践に直結した専門職連携教育の基盤を構築することにある。高学年の医療系学生（歯科衛生士・医学）への質的調査により、連携推進の障壁として「専門職間コミュニケーション」「多職種との力関係」「多職種との方針の違い」「多職種の役割の理解」等が挙げられた。特に、歯科衛生士学生は自職種を下層に位置づける「多職種との力関係」の意識が強い。一方で、医学生は歯科医療に対してう蝕治療のイメージが強く「多職種の役割の理解」が限られた。この調査結果を基盤に、卒前と卒後をつなぐ多職種連携教育に関する研究会を開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

周術期管理や栄養管理・摂食嚥下障害サポートなど医科歯科連携の重要性が高まる中、その実態に焦点を置き、医療者やその学習者の経験・認識を探索した研究は非常に少ない。本研究は、医科歯科連携に関わる医療者・学習者の連携に対する価値観や認識を記述し、専門職種で異なる要因が連携に影響していることを明らかにした。本調査結果を基盤にして、全国の医療教育者を対象にした卒前と卒後をつなぐ多職種連携教育の在り方を考えるワークショップを開催したことで、医科歯科連携を推進する教育開発に寄与することができた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to identify the enabling and impeding factors of medical-dental collaboration and to develop the foundation of interprofessional education that is directly connected to the practice in healthcare. In a qualitative study that we conducted, the medical and dental hygiene students have perceived several barriers to collaboration, including interprofessional communication, professional power and conceptual hierarchy, boundary blurring, a limited understanding of other professional roles and responsibilities and so forth. Based on the findings in this study, we developed and offered a nation-wide workshop on interprofessional education that bridges a gap between undergraduate and postgraduate education/clinical practice.

研究分野：医療者教育

キーワード：医科歯科連携 専門職連携教育 コミュニケーション チームワーク 質的研究手法

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

超高齢社会において、全身と口腔を関連づけた総合的ケアを行う「医科歯科連携(以下、「連携」)」は、社会が求める中心的医療実践の一つである。1999年に口腔ケアと誤嚥性肺炎予防の関連性が検証され¹⁾、口腔ケアが包括的患者ケアにおいて重要な位置づけであることが国際的に認識された²⁾。現代日本では高齢化の進展に伴い医科歯科連携による高齢者への診療体制の構築が更に求められるとともに、「治癒」「病院完結型」から「治し支える」「地域完結型」医療への転換が必要となる。一方で、その必要性が認識されながらも、円滑に「連携」を実践する地域・施設は限られているという報告もある。つまり、近年の「連携」の実情の把握と問題点の詳細な分析が、今後の医療の発展・改善において必要になってくる。

2009年に地域医療における「連携」の10事例を収載した「医科歯科連携事例集」が8020推進財団より発刊され³⁾、一部の地域の連携体制構築過程や患者ケア事例を取り上げ有益な情報が共有された。一方で、当事者の視点による連携従事者の「声」は十分に拾い上げられていない。さらに、全身疾患と歯科領域/口腔ケアを統合した卒前・卒後教育は十分に推進されていないことが指摘され、特に医学教育ではその傾向は顕著である^{4,5)}。「連携」教育推進のために両領域の教育者及び学習者の「連携」に対する認識が海外において調査されはじめたが^{6,7)}、超高齢社会の日本においては、その認識調査は十分に実施されていない。つまり、医科・歯科両領域の教育者/学習者の「連携」に対する認識を解明する必要がある。

2. 研究の目的

上記の学術的背景より、本研究の目的は、病棟ケア及び退院後ケアで「連携」に従事する各領域の医療者・学習者の経験や認識(差)を探索し、「連携」の促進及び阻害要因を明らかにすることにある。また、その調査結果をもとに、医療実践に直結した「連携」教育開発の基盤を構築する。特に、医療教育者向けに連携教育開発に関わる研修会を開発・企画し、医科歯科連携の促進に寄与することを目的とする。

3. 研究の方法

文献調査により専門職連携に影響を及ぼす要因として a) 組織レベル、b) チームレベル、c) 個人レベルに分類し特定した⁸⁾。この枠組みをもとに開発した半構造化インタビューの質問項目と Zhang らが開発した「医科歯科連携に対する態度と気づき」の質問紙票を用いて、医療従事者及び臨床実習を経験した高学年の医療系学生を対象に意識調査を実施した。

1) 研究協力の同意を得た多職種連携に従事する歯科衛生士7名に対して半構造化インタビューを実施した。インタビューでは、現在の多職種連携の経験を振り返りながら「専門職としての役割」や「協働の難しさ」等の意識について語ってもらった。逐語録にしたデータは主題分析手法を用いて、カテゴリー化を行った⁹⁾。

2) 臨床実習を経験した歯科衛生士学生90名に対して「連携に対する態度と気づき」に関わる質問紙調査を実施した。全員から回答を得た。また、その認識や価値観を有するに至った具体的な経験を探索するため無作為抽出した8名の学生に対して半構造化インタビューを実施した。さらに、臨床実習を修了した6年次の医学生10名に対して、「連携」の認識や経験に関わる半構造化インタビューを実施した。逐語録にしたデータは主題分析手法を用いて、カテゴリー化を行った⁹⁾。

3) こうした卒後と卒前の医科歯科連携に関わる調査結果をもとに、医療教育者を対象に卒前と卒後をつなぐ多職種連携教育に関わる研修会を企画、開催する。

4. 研究成果

1) 多職種連携に従事する病棟歯科衛生士の経験とアイデンティティ形成
医科歯科連携に従事する病院歯科衛生士(経験10~25年)に対するインタビュー調査から、連携チームにおいても歯科医療専門家としての役割・責任を果たそうとする意識を強く有し、専門職アイデンティティ形成がなされていたことが示唆された。専門職間での力関係が自身の「連携」実践にネガティブに影響するという認識はもたなかったが、「顔のみえる関係・体制づくり」や「多職種の役割の理解」といった組織レベルでの連携推進の難しさを感じていた。つまり、連携に関わる臨床経験を重ねるにつれ、個人レベルからチーム・組織レベルの障壁を認識できるようになることが示唆された。

2) 臨床実習を経験した高学年医療系学生の医科歯科連携に対する経験と認識

高学年の歯科衛生士学生への質問紙調査では、90名中65名(72.2%)が臨床実習中に「連携」を見た・経験したと回答し、その65名全員が連携の必要性を認識していた。一方で、「連携」推進の難しさを実感した学生は65名中46名(70.7%)にのぼった(図1)。

臨床実習中に医科歯科連携を見た・経験した

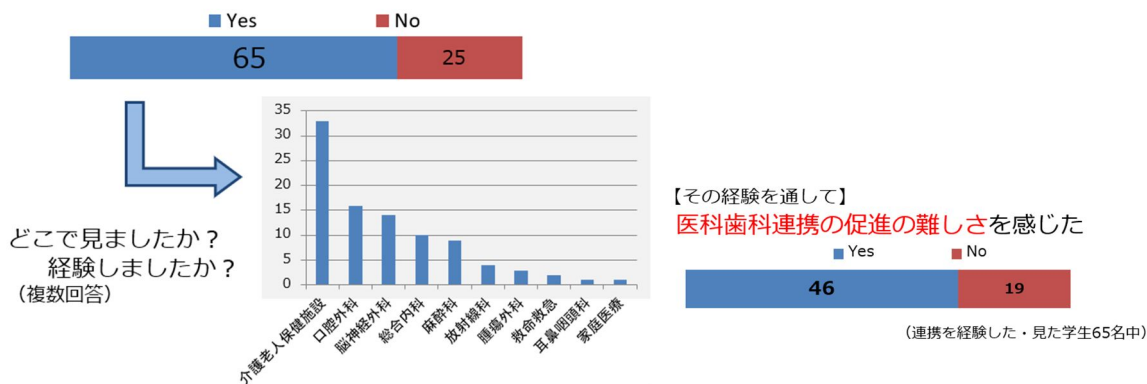


図1: 歯科衛生士学生の医科歯科連携に関わる経験と認識(質問紙調査)

インタビュー調査では「連携」推進の障壁として「専門領域ごとの言葉の理解」「他職種との力関係」「他職種との方針の違い」「他職種の役割の理解」等が挙げられた。特に、学生の中で歯科・口腔ケアの専門職としてのアイデンティティが形成されたにもかかわらず「他職種との力関係(歯科衛生士自身を下層に位置づける意識)」が自職種の役割や方針を他職種へ発信することへの躊躇につながる可能性を示した。この階層意識は、医師や看護師に比べ患者の生死に直結しないという自職種の責任や他領域の学生と比べた入学時の学力、全身疾患の知識量の差の認識に由来した(表1)。「連携」の中で口腔ケアを担う歯科衛生士の役割は大きい、調査結果より専門職としての主体性の確立や発信力、他職種の役割の理解、多職種間の階層意識の払拭を促す更なる「連携」教育の必要性が示唆された。

表1: 歯科衛生士学生が抱く他職種との力関係に関する認識(例)

対医師	<p>【遠い・見えない存在】 病棟の主治医が書いたカルテは何回か見たことあるんですけど。医師とはなかなか会うことができないので。歯科医師だと私たちは補助側にいるのですすぐ相談できるかもしれないんですけど...医師となると結構遠いかなって思っちゃいますね。</p> <p>【階層の上位者】 医師は「絶対」みたいなイメージがあるから。「先生」って感じ。患者さんもそんな感じで見てるし。どっち信じてもらえるかっていったら先生なのかなって。</p> <p>【教育課程の違い・学力】 こっち3年間やし向こう6年間やし、知識も多いやろうし、難しいテストやろうし、それはお医者さんのほうが上かなって感じてしまう。</p>
対看護師	<p>【全身疾患に関わる知識の差】 看護師には、あんまり強く(自分の意見を)言いづらいなって感じます。看護師の方は全身見てるじゃないですか、私たちは口だけのことだなんていう認識があるので。まだなんかそういうイメージがあって、看護師のほうができるっていう認識があるので。遠慮しちゃうっていうのはあります。</p> <p>【患者の生死に関わる職務・責任】 看護師さんは自立していて...すごい命とも関わるから。薬、注射とかいろいろあるじゃないですか。その責任と比べたら歯科衛生士より看護師の方がその責任が大きいんじゃないかなって思っ...だからそういった面で力関係をなくすことは難しいかなあ。</p> <p>【患者との関わり方】 (看護師は)多分患者さんに接してる時間が長いから、私たちは食事の前の口腔機能の訓練とか食事の介助と、その後の口腔内の清掃に関わる感じで、看護師のほうが(患者のところに)長くいて情報もたくさん持ってらっしゃるもんで...</p>

一方、医学生は、歯科医療に対してう蝕治療といったイメージが強く、歯科医療専門職の役割・責任の理解が限られている可能性が明らかとなった。それゆえに、どのような場面や領域でどのように協働したらいいかを具体的にイメージできた医学生は非常に限られた。そこには、臨床実習期間中に医学生が歯科医療者や歯科系学生との交流、協働する機会が少ないことが一因として考えられる。

3) 卒前と卒後をつなぐ多職種連携教育に関する研修会の開発・開催
研究成果 1) と 2) を基盤として、医学・歯学教育者を含む全国の医療者教育者を対象としたワークショップ「IPW と卒前 IPE とをつなげる 地域コミュニティの文脈から考える」を企画・開催した。ワークショップは、IPW の実践者と卒前教育者の各々の立場や視点を理解し、卒前教育から卒後数年の新人医療者への移行期における IPE/IPW の在り方を考えることを目的とした。具体的には、参加者自身の IPE や IPW の実際の経験を共有しながら、教育現場（卒前）と臨床現場（卒後）の実情を把握する機会を設けた。その実情を踏まえて卒前 IPE と IPW 間のギャップを埋める教育の在り方を議論した。特に、医療現場の視点からは、患者への責任性やチームメンバーの特性の多様性、文脈に即した対応の仕方、組織とチームとの関係性の考慮の重要性、卒前教育の視点からは、現場での連携の実際や各職種が果たすべき役割を学習者に意識させ学ばせる重要性が強調された。また、学生を送り出す卒前教育チームと受け入れる医療機関チームに分かれて、地域の病院での IPE 実習を構築するワークを行なった。両チームは数回の交渉を行ないながら教育プログラム案を協働して構築し、医科歯科連携教育の新たな提言をすることができたといえる。

引用文献

- 1) Yoneyama, T., Yoshida, M., Matsui, T., & Sasaki, H. Oral care and pneumonia. *The Lancet*, 354 (9177), 1999, 515.
- 2) Hendricson, W.D., & Cohen, P.A. Oral health care in the 21st century: implications for dental and medical education. *Academic Medicine*, 76(12), 2001, 1181-1206.
- 3) 財団法人 8020 推進財団. 地域医療の新たな展開: 医科歯科連携事例集. 東京, 2009.
- 4) 丸山泉, 大久保満男. 医科歯科の連携を求めて. *日本プライマリケア連合学会雑誌*, 38(2), 2015, 167-175.
- 5) 武川寛樹. 第 18 章 医学における歯科医学. 1. 医学教育における歯科医学教育. 歯科医学教育白書 2014 年版. 日本歯科医学教育学会白書作成委員会, 2014.
- 6) Kunde, A. & Harendza, S. Topics of internal medicine for undergraduate dental education: a qualitative study. *European Journal of Dental Education*, 19(3), 2015, 156-160.
- 7) Zhang, S., Lo E., & Chu CH. Attitude and awareness of medical and dental students towards collaboration between medical and dental practice in Hong Kong. *BMC Oral Health*, 15, 2015.
- 8) Imafuku, R., Kataoka, R., Ogura, H., Suzuki, H., Enokida, M., & Osakabe, K. What did first-year students experience during their interprofessional education? A qualitative analysis of e-portfolios. *Journal of Interprofessional Care*, 32(3), 2018, 358-366.
- 9) Braun, V., & Clarke, V. Using thematic analysis in psychology. *Qualitative research in psychology*, 3(2), 2006, 77-101.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 Imafuku Rintaro, Yasuda So, Hashimoto Koji, Matsunaga Daiya, Ohashi Yusuke, Yamamoto Kazuo, Tsunekawa Koji, Saiki Takuya	4. 巻 28
2. 論文標題 Exploring medical students' and faculty's perspectives on benefits of undergraduate research experience	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Medical Science Educator	6. 最初と最後の頁 553-560
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1007/s40670-018-0593-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 今福輪太郎	4. 巻 50
2. 論文標題 理論的貢献ができる研究をデザインする：研究パラダイムの理解の重要性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 53-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kawakami Chihiro, Imafuku Rintaro, Tsunekawa Koji, Saiki Takuya	4. 巻 9
2. 論文標題 Reasons and decision-making processes for applying to nursing school among nurses showing delayed professional development	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Nursing Education and Practice	6. 最初と最後の頁 21-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.5430/jnep.v9n1p21	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Saiki Takuya, Imafuku Rintaro, Suzuki Yasuyuki	4. 巻 40
2. 論文標題 Medical school choice and quality of undergraduate education	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Medical Teacher	6. 最初と最後の頁 974
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1080/0142159X.2018.1465538	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川上ちひろ, 今福輪太郎, 恒川幸司, 早川佳穂, 西城卓也	4. 巻 4
2. 論文標題 医学生が多職種医療系学生と協働して, 「地域の人々の健康や生活を支えること」を学ぶ: 医学部医学科4年生の在宅医療を学ぶ多職種連携医療教育の実践報告	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 岐阜大学教育推進・学生支援機構年報	6. 最初と最後の頁 129-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 今福輪太郎	4. 巻 4
2. 論文標題 当事者視点で学びを捉える学修支援部門ニュースレターの取材・編集を通して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 岐阜大学教育推進・学生支援機構年報	6. 最初と最後の頁 102-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Imafuku Rintaro, Kataoka Ryuta, Ogura Hiroshi, Suzuki Hisayoshi, Enokida Megumi, Osakabe Keitaro	4. 巻 32
2. 論文標題 What did first-year students experience during their interprofessional education? A qualitative analysis of e-portfolios	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Interprofessional Care	6. 最初と最後の頁 358-366
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13561820.2018.1427051	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nagatani Yukiko, Imafuku Rintaro, Takemoto Toshinobu, Waki Tadayuki, Obayashi Taiji, Ogawa Tetsuji	4. 巻 17
2. 論文標題 Dental hygienists' perceptions of professionalism are multidimensional and context-dependent: a qualitative study in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 BMC Medical Education	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12909-017-1107-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Imafuku Rintaro, Nishiya Katsumi, Saiki Takuya, Okada Hiroki	4. 巻 28
2. 論文標題 Online and face-to-face: Developing an inter-university undergraduate research	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Medical Science Educator	6. 最初と最後の頁 5-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40670-017-0509-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板家 朗、鬼塚 千絵、永松 浩、今福 輪太郎、木尾 哲朗	4. 巻 49
2. 論文標題 どのようにして研修歯科医は主体的な診療実践ができるようになるのか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 23-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎田 めぐみ、鈴木 久義、片岡 竜太、今福 輪太郎、小倉 浩、刑部 慶太郎、下司 映一	4. 巻 49
2. 論文標題 多職種連携実践に向けて医系学生が身につけた能力とは？ - 卒前の多職種連携教育の意義 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 35-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nunohara Kana, Imafuku Rintaro, Saiki Takuya, Bridges Susan, Kawakami Chihiro, Tsunekawa Koji, Niwa Masayuki, Fujisaki Kazuhiko, Suzuki Yasuyuki	4. 巻 20
2. 論文標題 How does video case-based learning influence clinical decision-making by midwifery students? An exploratory study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Medical Education	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12909-020-1969-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 今福 輪太郎	4. 巻 3
2. 論文標題 質的研究により主体的・対話的学習での学びを捉える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 薬学教育	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24489/jjphe.2019-004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Saiki Takuya, Imafuku Rintaro, Pickering Joyce, Suzuki Yasuyuki, Steinert Yvonne	4. 巻 39
2. 論文標題 On-site Observational Learning in Faculty Development	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Continuing Education in the Health Professions	6. 最初と最後の頁 144-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/CEH.0000000000000253	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Konishi Eri, Saiki Takuya, Kamiyama Hiroshi, Nishiya Katsumi, Tsunekawa Koji, Imafuku Rintaro, Fujisaki Kazuhiko, Suzuki Yasuyuki	4. 巻 Early View
2. 論文標題 Improved cognitive apprenticeship clinical teaching after faculty development	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Pediatrics International	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ped.14095	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件(うち招待講演 2件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 今福輪太郎、久保田涼子、山田小枝子
2. 発表標題 医療系学生の医科歯科連携に対する認識: 歯科衛生士学生への予備調査から
3. 学会等名 第50回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Rintaro Imafuku, Koji Tsunekawa, Chihiro Kawakami, Kaho Hayakawa, Takuya Saiki
2. 発表標題 How do first-year medical students communicate with elderly people? Changes in their interaction patterns across time
3. 学会等名 AMEE2018 Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 今福輪太郎
2. 発表標題 医療者教育における主体的・対話的学習での学びを捉える
3. 学会等名 第3回日本薬学教育学会大会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 今福輪太郎
2. 発表標題 文化と言語とアイデンティティを考える
3. 学会等名 第13回医療の質・安全学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 今福輪太郎 恒川幸司、川上ちひろ、西城卓也、早川佳穂、丹羽雅之、鈴木康之、藤崎和彦
2. 発表標題 高齢者との継続的交流での1年生の学習経験：コミュニケーション教育の観点から
3. 学会等名 第49回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Rintaro Imafuku, Takuya Saiki, Kaho Hayakawa, Yasuyuki Suzuki
2. 発表標題 Exploring the experiences and management strategies of medical students during international clinical electives: A qualitative study in Japan
3. 学会等名 AMEE 2017 Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Rintaro Imafuku, Ryoko Kubota, Saeko Yamada
2. 発表標題 What barriers to medical-dental collaboration did health professions students find during their clinical education? : A pilot study
3. 学会等名 AMEE2019 Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今福輪太郎、園井教裕、後藤亮平、春田淳志
2. 発表標題 多職種連携 (IPW) と卒前多職種連携教育 (IPE) とをつなげる 地域コミュニティの文脈から考える
3. 学会等名 第72回医学教育セミナーとワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長谷由紀子、脇忠幸、梶谷佳世、今福輪太郎
2. 発表標題 質的研究をはじめよう！ - 研究計画を体験してみる
3. 学会等名 第73回医学教育セミナーとワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今福輪太郎
2. 発表標題 質的研究で明らかにできること：計画から分析・考察までの道のりを振り返って
3. 学会等名 第4回日本薬学教育学会大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Susan Bridges, Rintaro Imafuku	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Purdue University Press	5. 総ページ数 434
3. 書名 Interactional Research into Problem-Based Learning	

1. 著者名 寺崎文生、赤澤千春、駒澤伸泰、竹明美、大森実知、中野旬之、道重文子、吉田久美子、角山香織、土手友太郎、恒川幸司、川上ちひろ、今福輪太郎 他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中外医学社	5. 総ページ数 304
3. 書名 実践 多職種連携教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----